

Title	通信セクターの経営危機と今後の展望
Sub Title	
Author	宇佐美, 祥(Usami, Yasushi) 許斐, 義信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2004
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2004年度経営学 第1933号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002004-1933">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002004-1933</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	許斐義信研究会	学籍番号	80328147	氏名	宇佐美 祥
(論文題名)					
通信セクターの経営危機と今後の展望					
(内容の要旨)					
<p>電気通信事業者の経営問題については、これまでさまざまな分析や議論が試行されてきたが、そのほとんどは公共政策、規制、経済学といった観点からのものであり、事業戦略論の切り口から正面を切って論じられているものは少ない。一方で通信セクターはこの20年余の間、各国における自由化・規制緩和と世界的な業界再編が繰り返され、競争はますますその激しさを増している。世界各国において近年発生した経営危機も、ある時はその原因でありまたある時はその結果であろう。そうした混沌の中で、今後通信事業者の経営はどのような舵取りを行ってゆくべきだろうか。通信セクターにおける不確実性および彼らが経験した経営危機を分析・評価することを通じ、この点に対するひとつの示唆を与えたいと考える。</p>					
<p>本研究ではまず、通信セクターの歴史的経緯について、特に1980年代の通信自由化以降に焦点を当てながら俯瞰し、通信事業者における現在の経営課題が不確実性のマネジメントであることを確認する。次に彼らが直面する不確実性の具体的内容について仮説を提示し、さらにそれに対応しダイナミックな戦略を策定するためのツールを提案する。そしてその有用性を検証するために、近年における日米欧での電気通信事業者の経営危機・破綻について、第3世代携帯電話、地域・長距離系、ADSLの3つの通信事業を事例として取り上げ、それぞれについて上記ツールを用いた考察およびその精緻化を行う。最後に今後の通信セクターの展望にそれを適用し、起こり得るシナリオおよび電気通信事業者の取るべき行動を提言する。</p>					
<p>筆者の考える通信セクターの直面する不確実性とは、「技術の不確実性」「需要の不確実性」「規制・政策の不確実性」「資本市場の不確実性」の4要素である。そしてそれぞれについて不確実性を4段階に区分した計16セルのマトリクスをツールとして提案する。これを用いて将来の不確実性を整理し、それをマネジメントすべく動的戦略を組み立てることは、通信セクターの各プレーヤーにとって有益なものであると考える。</p>					